

## 国際開発セミナーシリーズ

# 『本部、地域事務所、カントリーオフィスから見た世界保健機関(WHO)の仕事』

～国際機関で働くということ～

日時：2015年11月27日（金）

13：00～16：00

人間科学研究科 東館404

竹内百重氏（WHOカンボジア事務所 保健システム開発アドバイザー）

（たけうち・ももえ）上智大学大学院（国際経済・開発学修士）、東京大学大学院（保健学博士）修了。国立病院管理研究所（当時）、民間シンクタンク、私立大学講師などを経て、2001年にJPOとして世界保健機関（WHO）本部に赴任。以後、本部（ジュネーブ）、西太平洋地域事務所（マニラ）、2カ所のカントリーオフィス（バングラデシュおよびカンボジア）で保健システム強化、保健政策・財政、ポリオ撲滅・予防接種拡大計画、プログラム計画管理などに従事し、2014年より現職。

大谷順子氏（大阪大学大学院人間科学研究科 教授）

（おおたに・じゅんこ）副理事（社会学連携室）、大阪大学東アジアセンター長（海外拠点・上海オフィス）、大阪大学大学院人間科学研究科・教授。世界銀行、世界保健機関（WHO）中国代表事務所（北京）およびジュネーブ本部勤務。主な著書に『国際保健政策から見た中国—政策実施の現場から』九州大学出版会、2007年。『人間の安全保障と中央アジア』（編）、花書院、2010年、など他、多数。

### 13:00 第Ⅰ部

- ・本部、地域レベル、カントリーレベルでのWHOの役割（カンボジア保健セクター支援などを例に）（竹内百重氏）
- ・質疑

14:30 休憩

### 14:40 第Ⅱ部

- ・国際機関で働くことの意義（竹内百重氏）
- ・総括コメント（大谷順子氏）
- ・質疑